

あゆみ通信

VOL. 143

あゆみの会(真宗大谷派大阪教区第2組同朋の会)推進員連絡協議会
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康

親鸞のことば

誰もが願う、穏やかな日常
世のなか安穩なれ、
仏法ひろまれ

(親鸞聖人御消息集)

いざ地震や不況や疫病などが起こると、世の中は穏やかでなくなってしまう。新型コロナウイルスに怯える現在はまさにそのような状況です。

「世の中が穏やかであれ、そのために仏法が広まれ」この親鸞のことばを改めていただいきたいものです。

どんな人も救われるという阿弥陀様の教えが広がっていけば、人々は信心の智慧をたまわり、本当の意味で平穩な世が訪れるに違いない。そんな願いと確信に満ちた言葉といえます。

(真宗大谷派名古屋別院「人を照らす親鸞のことば」から)

新年のごあいさつ

あゆみの会 会長

細川克彦(佛足寺)



皆さん、新年あけましておめでとうございます。

このたび、浪花博会長のご退任により、三役の皆さんのご推薦を受け、会長を引き受けさせていただきます。

浪花博会長には、12年間、大変ご苦勞様でございました。厚くお礼申し上げます。

私はとてもそのような器ではありませんが、皆さまのお力添えを賜り、重責を果たしてまいりたいと存じますので、よろしく願いいたします。

新型コロナウイルスもなかなか感染が衰えることもなく猛威を振るっており、まことに一人お一人の日ごろのご注意も大変かと思ひます。

聞法は心の奥底からの、いのちの促がしではないでしょうか。コロナ禍で直接聞法する機会が減っておりますのは大変辛いものがあり、あゆみの会ではできる限り例会が開催されるよう、役員の方々と相談してまいりたいと思ひます。

私たちの大谷派教団が進めている同朋会運動では、各寺でご住職によって、同朋の会が開かれ、多くの方々が月に1回でも聴聞や座談会に参加され、仏法に出遇っていただけたことが願われております。推進員として、ご住職と協力して、そのような場が開かれるよう努めたいものです。

厳しいコロナ禍ではありますが、お体を大切にされて、あゆみの会例会でお会いできるのを楽しみにしております。合掌。

退任のご挨拶

浪花 博(法山寺)



このたび、高齢による諸事情のため、退任する決意をいたしました。

思い起こせば2008年第2組第二期養成講座修了者が、みずから聞法に励むとともに同朋の輪を拓げる目的で「あゆみの会」を発足しましたが、その時、たまたま年長だという理由で会長に推挙されました。

曲がりなりにも今日があるのは、事務局をはじめ役員の方々のご努力と、第2組ご住職や寺族の方々の温かいご支援のおかげであり、心から感謝申し上げます。

寺離れ宗教離れ、そしてコロナ禍の難しい時代ですが新役員を中心にご活躍ください。

私の聞法の姿勢は、私が納得したのみで、聞き損いになっています。残りの人生、「弥陀のみ手の中で、凡夫のまま生かさせていただく」「無量寿の命に生きよ、無量寿の命に生かさせていただく」ひたすら「本願を信じ念仏申す」ことにいたします。合掌。

新役員紹介

2021年～23年のあゆみの会役員は以下の通りです

- 会長 細川克彦(佛足寺) 新
 - 副会長 吉田雄彦(法山寺) 再
 - 同 本持喜康(即應寺) 再
 - 相談役 中嶋ひろみ(光照寺) 再
 - 同 浪花 博(法山寺) 新
 - 会計 本持喜康(即應寺) 新
 - 監査委員 長野敏彦(宗恩寺) 再
 - 同 細川孝子(佛足寺) 再
 - 常任委員 宮澤典男(即應寺) 新
 - 同 加藤徳江(即應寺) 再
 - 同 遠藤佑宜子(浄宗寺) 再
- これからもよろしく願いいたします。

当たり前有り難

あけましておめでとうございます。

あらためて、皆さんと共に新年を迎えられたことに感謝しながらです。

昨年来の、世界中がひっくり返るほどの、コロナ感染再拡大から引き続く今日ですが、皆さんにはお変わりありませんか。

人類がこれまで多くの疫病と戦い続けてきて、英知と研鑽の科学的医療をもってしても、これだけの犠牲と医療崩壊を招いているということに、自然の力の前には、もろいものだと思わざるを得ません。

今まで何の気にも止めずに過ごしてきた、当たり前な日常が、出来なくなった時、これほど有り難いと思ったことはありません。時として慢心する私たち人間に、それで良いのかという、呼びかけをされている気がします。

聞法第一で、常に自分が問われているということを自覚し、ますます真宗の教えを、身で聞くような自身ひきたらと願います。

今年もです。合掌。(本)

2021年総会を中止、 郵送による審議

12月13日(日)、産声を上げた即應寺で開催予定のあゆみの会総会が、コロナ感染再拡大による、知事の緊急事態宣言を受けて中止となりました。急遽、役員による協議で、異例ながら郵送による議案の審議を会員の皆さんにお願いすることになりました。

議案は①2020年事業報告と②2021年事業計画案、③2020年会計報告、④2021年予算案と⑤役員選出について(事務局案)です。2021年については、コロナ感染再拡大で、先行きが見えませんが、第2組と協議しながら進めることとしています。議案については、会員の皆さんの総意で可決していただきました。ありがとうございました。

特に、大事な点は、①まず、役員改選があり、浪花博会長(法山寺)が退任され、会長代行の細川克彦さん(佛足寺)が会長に選出されたこと。②2021年年会費は、前年の繰越金が残っているので、徴収しないことです。

この総会を新たな出発点に、中学生の気分です13年目を、共に聞法に励もうではありませんか。

第2組 報恩講 執行



2020年11月12日(木) 午後2時から阿倍野区の即應寺(藤井真隆住職)に於いて、コロナ禍の厳戒態勢の中で、第2組合同報恩講が執行され、組内の住職、寺族そして門徒、推進員の37名が参加しました。参加者は、マスクを着用し、入場時に手指の消毒。そして座席も間隔をあけて、窓を開放して換気をし、組内住職によ

る勤行に、参加者は控えめに抑えての発声と。講師の法話の際



は、スクリーン越しという、万全の態勢で行われました。講師は、即應寺前住職の藤井善隆先生で、「報恩」について、自身の懺悔として仏法に導かれた人生を熱く話されながら、真宗の報恩とは、「如来大悲の恩であり、師主知識の恩」であることを、お話しいただきました。お話しの後、引き続き同朋総会が開催されて、参加のご門徒から、門徒拡大についてや、寺院の目指すこれからについてなど、熱心なご意見があり、何時もいただくお斎は、持ち帰りで無事に終了しました。(池田副組長撮影の動画の一部は、難波別院の「银杏通信」に、第2組のレポートとして紹介されています。ご覧ください)

藤井善隆先生の法話一部



真宗で教えられている「恩」とは、如来大悲の恩と師主知識の恩。この二つは、私の中に素直に有り難い、お陰様と受け付けられないものが苦になって、私の中にあるということ。そういうことをはっきりさせてくださる働きです。「如来大悲の恩」如来というのは私の中に入り込んで、私の底から私が苦しみ悩み、何か問題を持っている私を突き上げて、その元に何かあるのか、苦しみの因ですね、それを明らかに照らし出しそしてそのまま撰めとるのです。大悲というのは、無条件であるがままの私をそのまま引き受けて、「あなたはあなたでよろしい。あなたになりなさい」大きな

大きないのちの大地のような世界ですね。如来様の御恩とは、手も合わさず、仏教くすくすと言っていた、そんな者が、何か知らん、仏教に心を向けさせて、お念仏とか何かという問いを起こさせ、苦しみ悩ませて、その底からこの私の暗い心を開いてお念仏に会わせてくださった。その働きの全部を本願力と言います。本願力とは何かと言いますと、道を求める心です。本当の自分というものを探し求める心。悩み苦しんでいる元に何かあるのか。そういう自分を苦しめ、気にしているのです。自分を苦しめ、気にしているというのが本願力の働きです。

その苦しみの意味は何か。わが心を頼む心、「私が」という奴です。自分の思い、はからいを頼んで思い通りにならないと気が済まない。何か幸せになろうとしているけれど、事実はそんな「私」は何の間にもあっていないのです。ご縁によって成ることは成る、成らんことは絶対成らん。親鸞さんはおっしゃいます。業縁に動かされてしか生きられない。善いことをしようと思っても、業縁がなかったら善いことも悪いこともできないと。自分を超えて、何か自分の内から積み重ねられてきた業というものと、外からやってきた縁というものと掛け合わせで、今日も業縁をもよおして、皆さんはこうしてお寺へ来られたのです。大悲の本願がかかっているのです。

「我に頼め、我に任せよ」「ただ念仏して弥陀にたすけられよ」善きことも悪きことも業報に任せて本願を頼めと、呼んでくださっているのです。それが南無阿弥陀仏せよと。我々に直接、本願と言うものが促しているということです。

もう一つ「師主知識の恩」師主というのは、お釈迦様のことです。知識とは諸仏です。(要約は事務局。続きは次号)